



ルドルフとイツパイアツテナを読んで

渋谷本町学園小学校 三年B組 熊澤 璃子

このお話は、魚やさんにおいかけられていたねこの「ルドルフ」が、トラックにのって東京に来てしまい、のらねこの「イツパイアツテナ」に出会い、文字の読み書きや人間社会のことを、けいけんする物語です。

本当にねこが字を理かいてできるなら、コミュニケーションをとることができ、ねこの体けんを聞いたり、わたしの知っていることをおしえることができて楽しいだろうなと思いました。

はじめて二人が会った日に、ルドルフが名前をたずねると、「オレの名前はいっぱいあってな。」と言われ「イツパイアツテナ」という名前だとかんちがいしてしまったところがおもしろかったです。

わたしはこの本のテーマは、友だちの大切さだと思います。なぜなら、イツパイアツテナがルドルフがふるさとに帰ることができるよう、地図を教えたり字をよめるよう一生けんめに教えたからです。そして、イツパイアツテナがルドルフといるさいこの夜にごちそうを食べさせてあげたいから、ブルドックにお肉をもらうためにたたかったシーンは友じよう

だなと思いました。ブルドックとたたかうことはねこにとつてとてもゆう気のいることなのに、イッパイアツテナはルドルフのために一生けんめいたたかうところはとてもかんどうしました。もし、わたしだったらこわくて足がふるえてしまいます。

わたしは、三年生でクラスがえをしてあまりしゃべったことがない友だちがたくさんいました。でも、運動会のソーランぶしのふりつけをグループで教えあったり、生き物係の仕事をみんなで協力してやったりするうちに新しい友だちがふえました。わたしの知らないことを教えてくれた友だちには、すごいなとそんなけいの気もちが生まれたり、はんたいに、わたしの知っていることを教えてあげた友だちには、それができるようにおうえんする気もちになります。友だちはあそぶためだけではなく、おたがいにささえ合っていていっしょにせい長していく大切なそんざいだと思います。

ルドルフもイッパイアツテナから新しいことをたくさん教えてもらって、たくさんおうえんしてもらって強いねこにせい長しました。イッパイアツテナのかたきをうつためにブルドックとたたかったルドルフはすごかったです。

わたしも、友だちを大切にしていまっている友だちがいたらすけられるような強い心のもちぬしになりたいです。